

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成23年5月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は3のまま変化なし。「減少した」業種は11から7に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は5から7に増加。「減少した」業種は22から14に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は1から2に増加。「悪化した」業種は30から23に減少。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は4から3に減少。「減少した」業種は9から11に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は9から2に減少。「減少した」業種は14から19に増加。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は3から2に減少。「悪化した」業種は30から31に増加。

製造業

▶パン製造

【県内全域】

上部団体である全日本パン協同組合連合会より、今回の震災に伴う被害復旧の助成金として、100万円の義援金が支給された。

▶漬物製造

【県内全域】

東電、福島原発に関連し、様々な問題があり、先行き不透明感がある。漬物製造には許認可制度がないため、浅漬などの素人の製造が増えてきているので、表示等の問題点から対策が必要なのではないかとの声がある。

▶豆腐製造

【県内全域】

包装資材、大豆、原材料の値上がりメーカーよりきだが、販売価格にすぐに転嫁できずにいる。

▶めん類製造

【県内全域】

取引先の外食業界も苦しい中で、麺価格の改定(※)は困難が予想されるが、原料小麦粉の値上は待ったなしであり、ご理解を得る努力が必要である。

※麦価改定(+18%)による原料小麦粉の値上げが製粉会社各社から発表された(6月20日実施)。

▶製材

【県内全域】

需給のバランスは収束にむかっている。震災の影響を受けて今ま

以上に省エネできる環境とやさしい商品が開発されると思う。

▶製材

【木更津】

津波による原木は貯木場へ100%回収された。各工場共通を通り通りの生産ラインに入った。東北方面への合板需要がでてきた。

▶印刷

【県内全域】

東日本大震災後の自粛・節約の影響から印刷物の受注が減少。官・民需共に動きが大変鈍く、県内用紙販売額が前月比△13%。

▶生コン製造

【県内全域】

震災の影響を受け、建設関連の設備投資が遅れ先々不透明感があり、現段階では盛り上がりに欠けているが、少しずつ具体的物件も出てきており、上期は無理であるが下期からは盛り上がりを期待。

▶鉄工業

【千葉】

自動車関連やロボット関連企業の一部に受注ストップの状態がみられるなど、震災ダメージの連鎖が物づくり産業に計り知れない負の影響を与えている。電力の供給回復と風評被害の早期鎮静化が望まれる。

▶機械部品製造

【野田】

震災復興産業に関係する建築機材、節電対策対応製品、機器関連

部品等の受注が増えている。

停電回帰の為、生産タイム調整、ライン調整等の計画を余儀なくされて来ている。

■機械部品製造

【**相**】 売上の持ち直しの実態もまだまだ希薄。トップメーカーの動きは出てきているのでタイムラグと思われる。一方、生産拠点の移動、海外生産による影響は今後出てくると考えている。

足元の生産アップは当然だが、軽量化、省エネ、CO2削減等キーワードにつながる動きが顧客要求としてスピードアップしている。

■非製造業

■総合卸売

【**千葉県・東京都**】 総じて震災による影響（入庫量、出荷量）は4月に比べやや薄らぎ、回復基調にあるが、震災復興の遅れ、原発事故の不安から先行きの景況見通しは不明。

【**酒類卸**】 自粛の動きはやや低下したが、前年同月比20〜25%出荷減少。【**日用雑貨**】 抗菌用品、殺虫剤、洗剤等が例年に比べ出荷の出足が早い。【**事務機器**】 部品の調達に難航。修理等の需要に対応できない。

■食肉卸売

【**千葉県他**】

枝肉価格が下落していることから出荷頭数が減少し、収益が悪化。

生産資材（燃料、飼料等）の高騰、枝肉価格の低迷により、畜産農家の経営を圧迫している。

■建築材料卸売

【**県内全域**】

震災の空白期間から脱却したが、政治空白が不安材料。将来的には、復興需要がでて、セメント関連は需要があるとは考えられるが、当面は逆に仕事が切れてしまいう懸念のほうが大。

【**自動車解体業**】 福島県の汚泥・廃棄物をセメント原料に受け入れたため、セシウム含有セメントが問題となったが国交省の基準ができたのでとりあえず収束した模様。

■自動車解体業

【**県内全域**】

景気低迷長期化により、雰囲気暗くなっている。

■乾物卸売

【**県内全域**】

前年に比べ低調である。各種イベントの中止、行楽等の自粛により需要が低迷している。

【**福島原発事故**による放射能汚染の影響が危惧される。特に来生産期（9月以降）時の海洋汚染が心配されるが、業界としても独自にモニタリングを実施する事を決めた。

■卸売

【**茂原**】

電力の節電により、店内が暗く消費者もなぜか活気ムードがない。

■小売

【**相**】

消費者の購買意欲に少し回復の兆しが見えるが、生活必需品以外は売れない。

■電気機器小売

【**県内全域**】

消費意欲が下降する中で、エコ商品の伸びが感じられる。LED電球、照明、エコ家電（エアコン）が予想に反して売れてきている。全体としては、売上減少の模様。

■青果小売

【**千葉県**】

震災後良くないが、4月5月とさらに売上が減少する結果に。売掛金の回収がやや悪くなってきた。

■中古車仕入・販売

【**県内全域**】

流通量減少基調でタマの取り合い状況定着。被災地復旧需要の個々のニーズの入れ替わりも見られ、低価格に向けられていた需要が中高価格帯に変わる側面も見られ、タマ不足の状況が広範囲に。

■小売

【**野田**】

GW前半は売上低迷したが、後半に盛り返した。しかし、買上げ客数は増加したが、売上総額でみると減少という結果に終わった。特にアパレルなどの買いまわり品にその

傾向が強く出た。

■建設揚重

【**県内全域**】

需要の停滞、料金の低下、諸材料の高騰で先行きが心配される。

■害虫防除

【**県内全域**】

野鳥特に烏・椋鳥・鳩の被害が酷く、相談件数及び受注が増加。震災被災地（旭市役所）訪問をし、衛生害虫に伴う相談を受けてきた。

■土木建築サービス

【**県内全域**】

地震による復旧業務の一部を受注した。

■ソフトウエア業

【**県内全域**】

震災による影響が引続き、業界の景況に出てきている。また、収益状況の悪化に繋がっている。

■水道管工事業

【**県内全域**】

今月は、海浜地区での国からの受注が1（2542百万）と大きかった。県と市町村では、前年と同額であったが、香取・市原・千葉は少なかった。

■貨物運送業

【**野田市**】

物流量の減少が著しく厳しい状況に陥っている。

■輸出入業

【**県下全域**】

原発事故の影響から空港から外国人がいなくなり、売上も減少した。4月は前年比約50%半減、5月は60〜70%で少し戻っている。